

1 ICT教育推進の取り組みについて

(1)GIGA スクールサポーターの活用

目 的	急速に学校 ICT 化が進む中、各小中学校へ支援を行うため、学校における ICT 環境整備の設計や使用マニュアル（ルール）の作成、ICT 技術者の学校への配置を行い、機器等の設定等を行う。
人数及び 配置期間	GIGA スクールサポーター 15 名 期間：令和2年11月1日～令和3年3月31日
業務内容	<p>①ICT 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教師用パソコンと電子黒板の連携・ 学習で使うアプリのインストール <p>②使用マニュアル（ルール）の作成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日常的なメンテナンスに関するマニュアルや手順等の作成・ 教員、児童生徒向けの ICT 端末の使用方法についてのマニュアルの作成・提示・ オンライン教育学習ツールについて、授業で活用する際のマニュアルの作成・ 学習用タブレット端末を使用する際のセキュリティーポリシーの作成 <p>③使用方法の周知（校内研修の実施、操作支援）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 電子黒板の活用の仕方（校内研修）・ デジタル教科書の活用の仕方や操作手順（校内研修）・ 協働学習における学習用タブレット端末等の操作方法や効果的な活用方法（校内研修）・ オンライン学習ツールについての操作手順（校内研修）・ 学習用タブレット端末、ソフトウェア、電子黒板を利用する際の機器の準備や後片付けの支援

(2) ICT 研究指導員の活用

目 的	ICT 活用における校内研修の実施や操作支援、専門的知識を必要とする授業支援や技術指導を行う「ICT 研究指導員」を配置し、学校現場での支援を行う。
配置人数	令和 2 年度：3 名 令和 3 年度：7 名 ※令和 3 年度から ICT 研究指導員を 7 名に増員
業務内容	①授業支援 ・ 授業計画の作成支援 ・ ICT を効果的に活用した授業づくりの提案・助言や ICT 機器を利用した教材作成 ・ 学習用タブレット端末、ソフトウェア、電子黒板等を利用する際の機器の準備・後片付けの支援 ・ ICT 機器の動作確認、学習用タブレット端末の充電状況などの日常的なメンテナンス ・ 学習用タブレット端末を活用する授業で ICT 機器の操作方法についての教師や児童生徒への支援 ・ プログラミング教育などの高度な専門的知識を必要とする授業支援、技術的指導 ②校務支援 ・ 校務支援システム等の操作支援 ・ 家庭や地域への情報発信の支援 ③環境整備 ・ 授業支援アプリ、タブレット版学習ドリル等のアカウントの管理 ・ 障害トラブル対応 ・ ソフトウェアのインストールの支援 ・ ICT 活用時の相談対応やトラブル対応などの事例の蓄積 ④校内研修 ・ ICT 機器活用状況や教員スキル等を考慮し、研修企画の提案・助言 ・ 研修で利用するテキストや資料作成の支援 ・ 電子黒板、デジタル教科書、学習用タブレット端末の操作方法や、効果的な活用方法に関する研修の実施

(3) ICT 研究指導員の活用状況（令和 3 年度学校訪問回数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
小 学 校	155	152	202	171	94	198	183	178	155	120	169	134	1,911
中 学 校	71	68	60	57	32	42	38	38	31	25	34	41	537
合 計	226	220	262	228	126	240	221	216	186	145	203	175	2,448
1 校あたりの訪問回数	7.8	7.6	9.0	7.9	4.3	8.3	7.6	7.5	6.4	5.0	7.0	6.0	84.4

2 ICT 活用教育実践事例等について

① ICT 活用教育実践事例集

各学校が 1 年間取り組んだ「ICT を活用した学習」を記録として残し、全市で共有するため、「ICT 活用教育実践事例集」を作成

（小学校 44 事例、中学校 32 事例、計 76 事例）

※事例の一部を飯塚市ホームページで紹介

このうち 2 事例を 4 ページ、5 ページに掲載

② GIGA スクール通信

飯塚市における ICT 教育の充実に向けた取り組みや各学校での ICT 活用の取り組みを紹介

（月 1 回程度発行）

※発行分は飯塚市ホームページに掲載

[ホーム](#) > [子育て・教育](#) > [教育](#) > [小中学校タブレット活用ページ](#) > ICT活用教育実践事例

更新日：2022年3月31日

ICT活用教育実践事例

飯塚市では、令和2年度に市立学校の小学校1年生から中学校3年生まで、1人1台の学習用タブレット端末（Chromebook）を整備し、令和3年4月から本格運用を開始しました。

このことにより、市立小中学校の授業では、子どもたちが鉛筆やノートと同じように、学習用タブレット端末を日常的に使用する場面が増え、ICTの活用が進んでいます。

子どもたちが、一人ひとりに合った様々な方法で取り組める学習や、時間や空間を超えていろんな人たちと協働しながら進める学習が、ICTの活用で実現できるようになりました。

飯塚市では、すべての市立小中学校が、学習内容に合わせて ICT を効果的に活用した授業づくりに取り組んでいます。その実践の一部を紹介します。



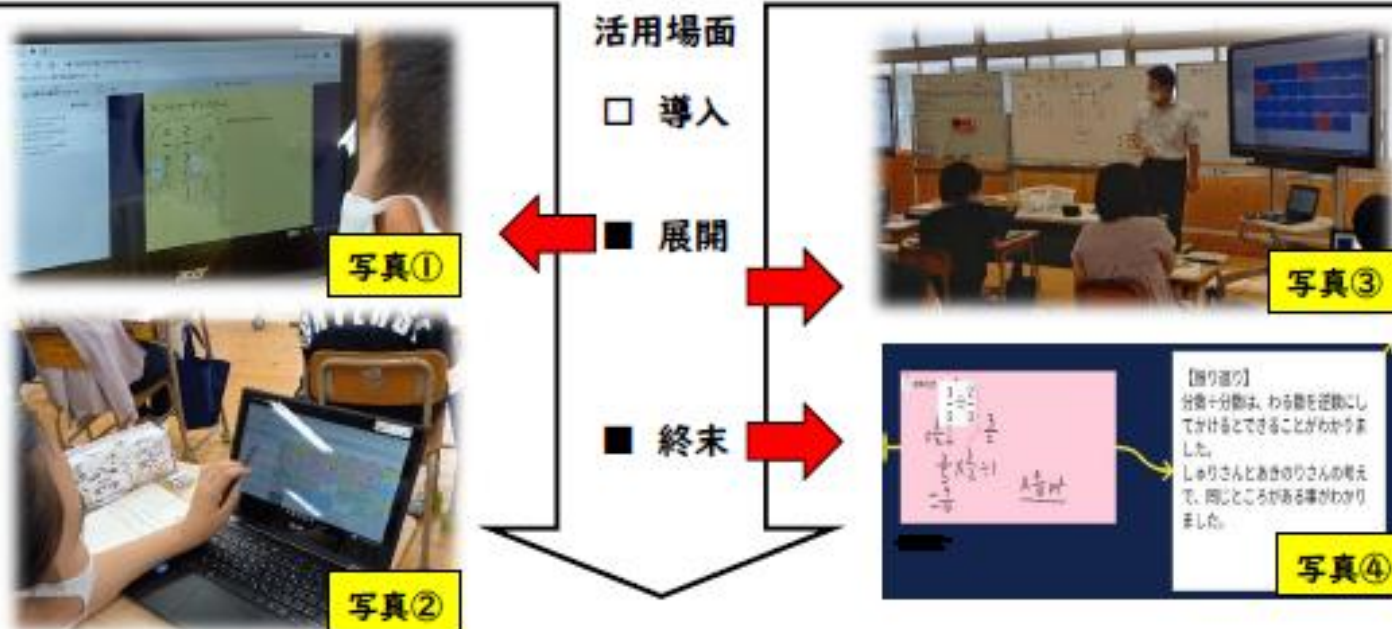
小6年 **算数科 「分数÷分数」** 使用するアプリ・ツール ○ ロイロノート ○ 超教科書

◇ ICT活用のポイント ◇

分数÷分数の学習では、わる数の分数の分母と分子を入れ替えてかけ算をすればよいという形式的な学習に陥りやすい。そこで本時では、ロイロノートを使い**複数のヒントカードを選択できるようにさせたり** (写真①)、**友達のをを一覧表示し参考にさせたり** (写真②) しながら計算の仕方について一人一人にしっかりと考えさせる場を設定した。「わる数の分数を整数にすれば普通のわり算になり計算することができる」と考える児童がいる一方で「わる数の分数の逆数をかけると1になり計算することができる」と考える児童もおり、全員が自分の考えをタブレットに表現することができた。児童の中にはどちらの考え方もできている児童もいた。 **【個別最適な学び】**

そして、わる数の分数を「**1**整数にする」「**2**1にする」の2通りの方法で考えさせる際に**児童の考えを青と赤で色分けして一覧表示し話し合わせることで** (写真③) わる数の逆数をかける意味を理解させることができた。 **【協働的な学び】**

終末段階では、**学習の振り返りをロイロノートに書かせ、展開時に書いたカードと比較させることで** (写真④) 自分の考えの変容や価値に気付かせることができた。 **【個別最適な学び】**

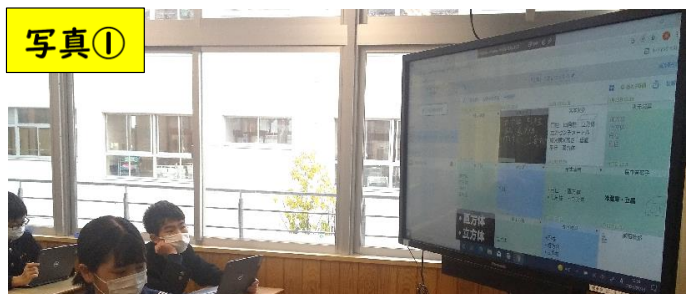


◇ICT活用のポイント◇

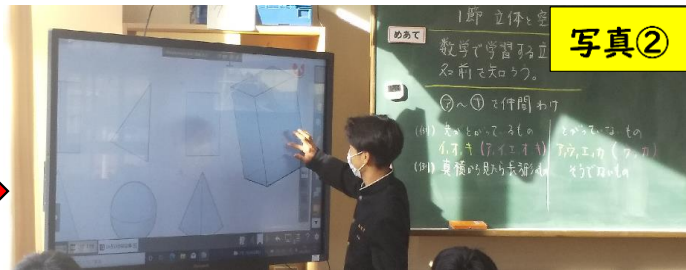
空間図形の学習では、図形の必要な部分を見取図や展開図、投影図として平面上に表現して捉えたり、平面上の表現からその図形の性質を見いだしたりすることができるように指導をしていく必要がある。そこで、「いろいろな立体」を学習する過程において ICT を活用する実践を行った。

- (1) 「いろいろな立体」の導入では、小学校で学習した空間図形の内容を振り返り、全体で共有するためにロイロノートを活用した（写真①）。学習内容の系統性を意識させるとともに、角柱・円柱・体積等、生徒の既有的知識をそろえて学習をスタートすることができた。【協働的な学び】
- (2) 展開Ⅰでは、実物と見取図の立体をつなぐために超教科書（デジタル教科書）を活用した（写真②）。見取図の方向を自由に変えられる機能を使い、苦手意識の強い生徒には実際に操作させることで「立体を平面上に表現する」ことの意味を理解させることができた。【個別最適な学び】
- (3) 展開Ⅱでは、見取図・展開図・投影図の特徴をまとめ、それぞれのよさについて考えることができるようにロイロノートを活用した（写真③）。各自が調べた特徴を共有・比較した後、図のよさについて考える活動を行うことで、主体的に思考する姿が見られた。【協働的な学び】
- (4) 「いろいろな立体」の終末では、学習内容の定着を図るためにタブレットドリルを活用した（写真④）。教科書やノートを振り返りながら解答の様子や、動画解説を見ながら学習内容を再度確認する姿が見られた。【個別最適な学び】

写真①

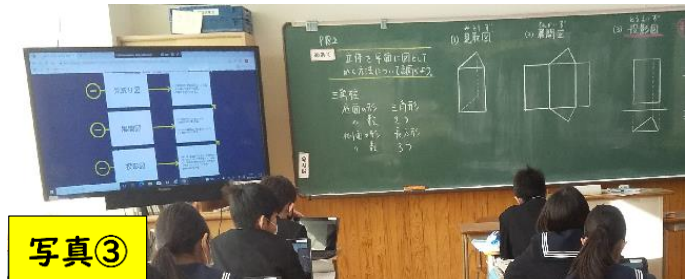


活用場面
□導入



写真②

□展開Ⅰ



写真③

□展開Ⅱ



写真④

□終末